

文化財 ニュース

20 2020

テーマ展 1

「千代田区収蔵資料からみる 東京オリンピック 1964」

開催期間2020年4月21日(火)～10月18日(日)※

1 オリンピック

4年に一度のスポーツの祭典、近代オリンピックの歴史は、【表1】のように1896年のアテネ大会(夏季オリンピック)を第1回としています。

「オリンピックは、勝つことではなく
参加することにこそ意義がある」

« L'important dans ces olympiades c'est moins d'y
gagner que d'y prendre part. »



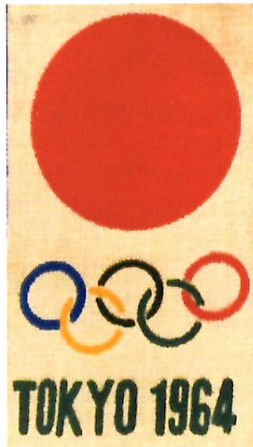
1964年のオリンピック関連資料

この言葉は、古代オリンピックを復興させ、近代オリンピックの基礎を築いたフランスの教育者、クーベルタン男爵(Coubertin, 1863-1937)によるものです。彼は近代オリンピックの父、復興者と呼ばれ、オリンピックのシンボル、世界5つの大陸、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアを示す五輪のマークを考案しました。
【写真①】

近代オリンピック(仏語で Jeux olympiques)に日本が参加したのは明治45年(1912)の第5回ストックホルム大会からです。昨年、NHKで放送された大河ドラマ『いだてん』で詳しく紹介されました。

またアジアで最初にオリンピックが開催されたのは1964年東京大会ですが、実は1940年に東京大会が計画されていました。日中戦争(1937-1945)の勃発により

※毎月第3月曜日が休館日



【写真①】オリンピック（五輪）のマーク

開催都市を返上したことで、幻のオリンピックと呼ばれました。第二次世界大戦後、東京が再び1964年のオリンピック開催地に選ばれます。日本はこのオリンピックを、敗戦からの復興と国際社会への復帰を示すシンボルとしました。

2 TOKYO 1964

1964年のオリンピックが日本に与えた影響は計り知れず、開催都市東京では競技施設の建設、交通網の整備が図られ、現在の東京の形が作られます。さらに、「オリンピック景気」による経済発展や、スポーツの活性化、旅行ブームの到来など、人びとの生活スタイルにも大きな変化をもたらしました。特に、オリンピックをテレビで観るために、テレビを購入する家庭が増加し、テレビ番組の視聴者が多くなります。これ以降、テレビが庶民の娯楽として定着していきます。【写真②】

3 テーマ展示

千代田区には1964年の東京オリンピックに関する資料が区民から寄贈されています（表紙写真）。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて戦後の復興のシンボルとなった1964年のオリンピックを振りかえるテーマ展「千代田区収蔵資料からみる東京オリンピック1964」を、常設展示室V室で行います。

展示資料のなかには、実際にオリンピックを観戦した際のチケットやパンフレットがあります。ほかにも東京オリンピックのテーマソングとして、130万枚を売り上げた三波春夫盤の「東京五輪音頭／東京五輪おどり」のレコードや、観光客向けの絵葉書や記念切手、大会日程表があり、当時、日本を訪れた外国人向けの東京のガイドマップなども展示予定です。

1964年の東京オリンピックに関する資料は、当時の人びとの戦後からの復興と経済発展を伝える貴重な証拠です。

（学芸員 白井拓朗）



【写真②】MITSUBISHI製カラーテレビ
当時は「プリズムテレビ」と呼ばれていました。

開催年	オリンピック アード	開催都市(国)	参加国・地域	日本参加(選手数)	開催年	オリンピック アード	開催都市(国)	参加国・地域	日本参加(選手数)
1896	第1回	アテネ(ギリシア)	14	×	1964	第18回	東京(日本)	93	○(355人)
1900	第2回	パリ(フランス)	19	×	1968	第19回	メキシコシティ(メキシコ)	112	○(183人)
1904	第3回	セントルイス(アメリカ)	13	×	1972	第20回	ミュンヘン(西ドイツ)	123	○(182人)
1908	第4回	ロンドン(イギリス)	22	×	1976	第21回	モントリオール(カナダ)	92	○(213人)
1912	第5回	ストックホルム(スウェーデン)	28	○(2人)	1980	第22回	モスクワ(ソビエト連邦)	80	×
1916	第6回	ベルリン(ドイツ)	—	戦争のため中止	1984	第23回	ロサンゼルス(アメリカ)	140	○(231人)
1920	第7回	アントワープ(ベルギー)	29	○(15人)	1988	第24回	ソウル(韓国)	159	○(259人)
1924	第8回	パリ(フランス)	44	○(19人)	1992	第25回	バルセロナ(スペイン)	169	○(263人)
1928	第9回	アムステルダム(オランダ)	46	○(43人)	1996	第26回	アトランタ(アメリカ)	197	○(310人)
1932	第10回	ロサンゼルス(アメリカ)	37	○(131人)	2000	第27回	シドニー(オーストラリア)	197	○(268人)
1936	第11回	ベルリン(ドイツ)	49	○(179人)	2004	第28回	アテネ(ギリシア)	202	○(312人)
1940	第12回	東京(日本)→ヘルシンキ(フィンランド)	—	戦争のため中止	2008	第29回	北京(中国)	204	○(339人)
1944	第13回	ロンドン(イギリス)	—	戦争のため中止	2012	第30回	ロンドン(イギリス)	204	○(293人)
1948	第14回	ロンドン(イギリス)	59	×	2016	第31回	リオデジャネイロ(ブラジル)	205	○(338人)
1952	第15回	ヘルシンキ(フィンランド)	69	○(72人)	2020	第32回	東京(日本)		
1956	第16回	メルボルン(オーストラリア)	67	○(119人)	2024	第33回	パリ(フランス)		
1960	第17回	ローマ(イタリア)	83	○(167人)	2028	第34回	ロサンゼルス(アメリカ)		

【表1】第1回大会から第34回大会までの夏季オリンピック開催地

参考：日本オリンピック委員会ホームページ

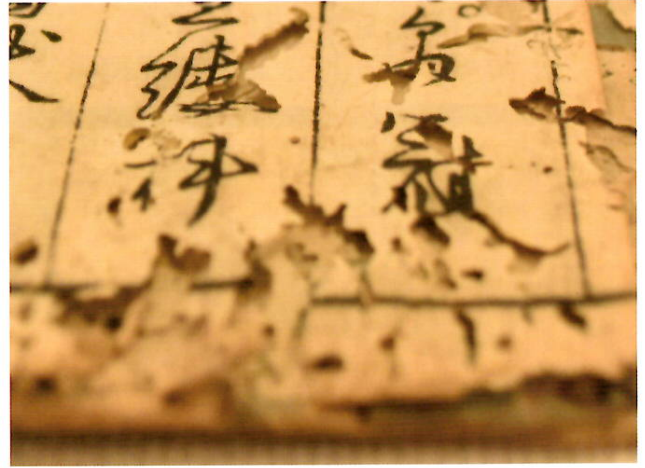
夏季パラリンピックはローマ大会（1960）から行われ、ソウル大会（1988）で「パラリンピック」という名称で正式化されました。



「特別展こぼればなし—本に挟まれたイチョウの葉」

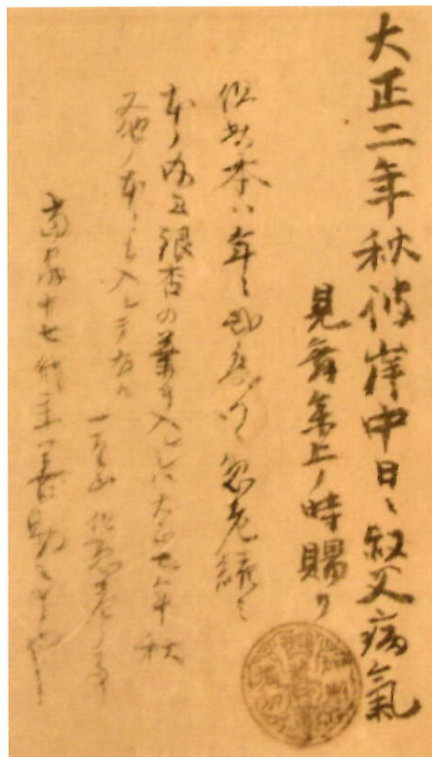
日比谷図書文化館において開催した令和元年度文化財特別展「江戸の人びと、本をたしなむ」（開催期間：令和2年1月18日～3月8日）では、齋藤吉之氏が長年かけて収集した和本を展示し、江戸時代の出版文化に焦点をあてました。文化財ニュース20号では、展示コラム②「本の虫」でもとりあげた、イチョウの葉を本に挟んだ資料を紹介します。

本の大敵としては、水やカビがありますが、特に大きな被害をもたらすのが虫です【写真①】。紙を使用するようになって、人びとは本を虫から守る手段を長い時間かけて模索してきました。その1つが植物を本に挟むという方法で、【写真③】は実際に頁の袋に入っていたイチョウの葉です。



【写真①】 虫に喰われた資料（拡大）

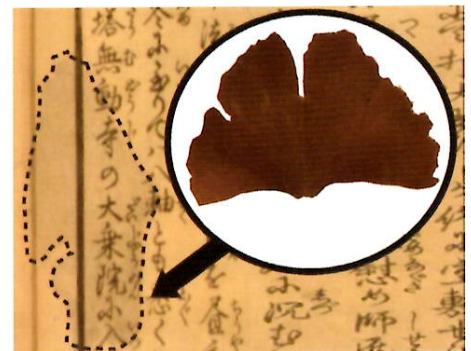
【資料②】『親鸞聖人伝記図会』巻一裏表紙の見返し（拡大）



但此本ハ、年々忒度ツ、愚老読ミ、本ノ内に銀杏の葉ヲ入レシハ大正七年秋又他ノ本ニも入レテ有ル

一厘山 但愚老ノ事
当家十七代主善助事也

大正二年秋彼岸中日、叔父病氣
見舞参上ノ時賜り
印



【写真③】 上：頁と頁の間に挟まれたイチョウの葉
下：頁にはイチョウの葉の影が写っています（点線部分）

【写真②】 大正7年（1918）秋に本の所有者であった善助という人物が、イチョウの葉を本に挟んだことが記されています。

イチョウの葉を用いた防虫方法は、鎌倉時代から用いられてきました。ところが、イチョウの葉自体に防虫効果はありませんでした。江戸時代の苗村丈伯著『年中重宝記』（1694年刊行）には、防虫効果のある芸草の葉とイチョウの葉が類似していたため誤って使用されたと説明されています。

イチョウの葉に防虫効果がないにせよ、本にイチョウの葉を挟むという発想からは、先人たちが本を守ろうと苦心していた様子がうかがえます。今回の特別展を通して、本を後世に伝えるための先人たちの工夫の跡を改めて知ることができました。

（学芸員 白井拓朗）

令和2年度年間スケジュール

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

21(火) 18(日)

テーマ展1「千代田区収蔵資料からみる東京オリンピック 1964」



20(火) 14(日)

テーマ展2「新収蔵資料の紹介—絵葉書」(仮)

常設・企画展

講座



10月もしくは11月

文化財ウィーク講座「遺跡から考える麹町の由来」(仮)

10月もしくは11月

地域を知る講座「書簡でたどる富士見の幕末」(仮)

3(火)

まち歩き講座 江戸城登城ウォーク

体験

8月もしくは9月

体験教室 手描提灯をつくらう



※日程の詳細については、別途お問合せください。
 ※事情により内容の変更、取りやめになる場合もございますので、ご了承ください。



開館時間 月～金 10時～22時
 土 10時～19時
 日・祝 10時～17時

文化財事務局 月～金 10時～18時

※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。

休館日 毎月第3月曜日

文化財ニュース 第20号 (3,000部)

発行日 令和2年3月25日

編集・発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務局
 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
 TEL: 03-3502-3348 FAX: 03-3502-3361
 HP: <http://edo-chiyoda.jp>
 e-mail: bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp

印刷 株式会社サンワ

都営地下鉄 ●三田線—「内幸町駅」徒歩3分
 東京メトロ ●千代田線
 ●日比谷線 } 「霞ヶ関駅」徒歩5分
 ●丸ノ内線

駐車場 当施設に駐車場はありません。

TOK